

通学路の安全確保を

山下 秀則 議員

答 市民の関心も高く改善に努める

問 通学路の危険な場所等について、学校や地域からの要望や、また通学路の総点検は実施されてきたか。
市長 全国で、登下校中の子どもが巻き込まれる交通事故が相次いでいる。通学路の安全確保の関心は高い。筑後市でも、問題のある通学路も少なくない。警察や県もかつてないほど積極的に通学路に関する情報提供を求めている。問題のある通学

路を一つでも減らすことができるよう改善に努めていく。

地域のハザードマップの作成を

問 地域限定の防災・防犯ハザードマップ作成についてどう考えるか。

地域支援課長 地域の安全・安心を見直す機会になると考える。安全・安心に関する補助金を今年度拡充しているため、市でも支援できる部分は支援していく。

女性消防団員の拡充を

問 消防団の実働者数の問題は、定数確保も同様に全国的な課題である。今後、女性消防団員の増員も含め定数条例の見直しは必要だと思うが。

市長 防災から減災へという取り組みの推進に女性ならではの力を発揮し、さらに女性消防団員の活動の場を拡大したいと思っている。



女性消防団の活躍を(防災訓練6/3)

図書館の充実は

富安 伸志 議員

問 市立図書館が昨年12月にオープンした。貸出冊数など順調に伸びているが、課題も感じられる。

図書館事務長 今後、歴史・福祉・健康・産業など様々な蔵書を揃え、学

問 小中学校への団体貸出が少ないのでは。

図書館事務長 今後、歴史・福祉・健康・産業など様々な蔵書を揃え、学



「今日はどの本にしようかな」
(おひさまハウスでのアウトリーチサービスの様子)

答 現在のサービスの拡充や蔵書の充実を図る

要では。

図書館事務長 4～5年後くらいには蔵書を10万冊に持っていきたい。

消火栓整備は十分なのか

問 市は各地域で自主防災組織の取り組みを推進することとしているが、防災意識が高まるほど、設備などの要求も増えてくる。一番身近な災害である火災の初期消火活動などができるよう消火栓設置などの整備をすべきでは。

市長 防災訓練と合わせ消火栓訓練など大事なことだと思う。その設備などは計画的に整備し、安全で安心な筑後市を作っていきたい。